香葉

第11号
通算42号

関東学院女子短期大学
香葉会
発行人　山口佳子
代表　横浜市金沢区
六浦東1-50-1
直通・FAX　045-787-0678
E-mail:kouyoukai@nifty.com
URL http://koyokai.shonan.cc

関東学院女子短期大学　改組10周年の会

早いもので人間環境学部として出発してから10年の歳月が流れました。
大学の在り方も少子化等で変化しています。これからも学校を応援したいと10周年の会を企画いたしました。皆様お声を掛け合っていらしてください。

●日　時　2013年11月10日（日）11：30～
●場　所　chef'sV シェフズブイ　ランドマーク店（横浜ランドマーク5階）
●会　費　5,000円
●〆　切　10月25日（金）

日本画講習会〔講師　織田明美（家12）〕

年賀状を日本画で描いてみませんか。来年の干支は午です。愛らしい馬、駿馬などあなたのオリジナルの一枚ができます。その他にも四季折々の花の画などもあります。初心者の方にも楽しんで参加して頂けます。

●日　時　2013年11月20日（水）10：00～
●場　所　香葉会室
●参加費　1,000円
●持ち物　エプロン・タオル　あれば 筆・顔彩
●〆　切　11月12日（火）

ビーズ講習会〔講師　高石和枝（国4）〕

先生のご指導の元、ビーズがかもし出す輝きと、さまざまな色を組み合わせて、一粒一粒さしていく喜びのひと時を、ご一緒に楽しみませんか。

●日　時　2014年1月25日（土）13：00～
●場　所　香葉会室
●参加費　3,000円
●持ち物　糸切ばさみ
●〆　切　12月17日（火）（先着10名）

第5回　香葉賞

人間環境学部4学科4名の卒業生に3月24日（日）謝恩会にて香葉賞（賞状と記念品）を授与いたしました。

学校探検ツアー〔ガイド　山口佳子（国1）〕

皆様の通っていました室の木校舎に看護学部ができました。通っていた正門の前に幼稚園と保育園を一体化した「こども園」ができました。景色がどう変わったか見学にいらっしゃいませんか？おいしい大学の学食にもご案内いたします。

●日　時　2013年10月12日（土）10：00～
●集合場所　室の木校地
●参加費　1,000円（資料・保険・昼食代等）
●〆　切　9月26日（木）

クリスマス小物講習会

松ぼっくり・布・リボンなどをオリジナルのアイデアで、クリスマスの飾りを作りませんか？　出来上がった作品は飾って楽しみましょう。男性でも楽しめます。ご家族揃って参加下さい。お待ちしております。

●日　時　2013年10月23日（水）10：00～
●場　所　香葉会室
●参加費　1,000円
●〆　切　10月5日（土）

山手西洋館散策〔ガイド　椙木勇（元短大非常勤講師）〕

毎年恒例、異国情緒たっぷりの西洋館を巡りましょう。外国のクリスマスの飾りを味わいながら外景の建物のガイドを椙木勇先生にお願いして、楽しみましょう。

●日　時　2013年12月7日（土）10：00～
●集合場所　山手地区（参加者連絡）
●参加者　1,000円（資料・保険代等）
●〆　切　11月28日（木）

香葉会の皆様へ

燦葉会支部総会に参加しませんか？　ここ数年燦葉会の各支部の総会案内が届いた方もいらっしゃると思います。ご主人が学部出身者の方も多いはず。学生時代の仲間も沢山いると思います。ぜひ参加してみませんか？
また、当日の様子をぜひ寄稿ください。「香葉」誌上やホームページでご紹介します。

※各企画は香葉会事務局（上記参照）にてFAX・往復はがき・Eメールにてお申し込み下さい。

会長挨拶

山口　佳子（国1回）

早いもので短大改組から十年の年月が過ぎました。人間環境学部も勿論十周年となり、多くの卒業生が集まっての盛大なお祝い会が開かれました。

短大改組も世の流れでしたが、大学も例外ではありません。大学は看護学部を新設、工学部は理工学部となり、建築は従来の視点に環境と時間をとりいれ、建築・環境学部になりました。また短大付属幼稚園でもあった六浦幼稚園は幼稚園、保育園、地域に於ける子育て支援の役割を担う六浦こども園として再スタートをいたしました。短大幼児教育科卒業生根津園長先生の想いの詰まったステンドグラスが新園舎をさらに素敵な建物にしています。このようにキリスト教精神に基づいた豊かな人間性と質の高い教育を目指し、二〇一一年に策定した長期目標「関東学院グランドデザイン」、中期目標「オリーブ7」により改革は着々と進んでおります。

少しでも学校の良さをお伝えしたいとの思いから関東学院女子短期大学改組十周年の集いを**十一月十日（日）**横浜ランドマークのレストランで開催の運びとなりました。当日はグリークラブOBの方々をお招きし歌っていただくことになっております。

また、大学の施設を見ていただきたいと学校探検を計画いたしました。施設を見学していただきその後学食での昼食を考えております。昔日の学食の状況と較べていただけるかとも思います。女性ならではのビーズ講習会・日本画で描く年賀状講習会も好評です。

ぜひご参加ください。

今号では「短大の思い出」と題し、諸先生方、先輩方に執筆をお願いいたしました。

お忙しい中、心のこもった文章をお送りいただき感謝申し上げます。また、林淳三元学長が書かれたご本〝関東学院の女子教育〟では短大の歴史と共に存在の意義が書かれ、教育に寄せる先生の情熱を感じると共にここに学んだ幸せを感じております。

〝あるようにあり、なるようになる〟偶然そうなったのではなく、そのようになるべく方向づけをして下さった沢山の方々により、今がある。我々は何処から来たのか、何者か、何処にいくのかという問いを正面から受け止め、次へ進みだして行けるとの思いを持つことが出来ました。

たった二年、されど二年関東学院に学んだという絆を相互に強めていく手助けをしたいと考えています。香葉会の方々と燦葉会（大学同窓会）が一緒に活動していくよう支部への参加をお勧めしています。

どうぞ皆様今年度もよろしくお願いいたします。

尚、林先生のご本「関東学院の女子教育」については、お分けしておりますので事務局にお問い合わせください。

燦葉支部会御案内

西湘支部　9月21日（土）
湘南支部　9月29日（日）
県央支部　10月19日（土）
問合せは香葉会事務局まで

「松本久子さん、ありがとう」

古城　房子（英1回）

マツさんと呼ばれて、皆に親しまれていた松本久子さんが二〇一二年九月八日、八十七才で天に召されました。一週間前には霞ヶ丘教会での礼拝の後、皆さんと談笑されていたそうですし、二週間前には私に電話を下さって近い内に鎌倉の私宅を訪ねて下さるとの元気なお声を聞いていたので、妹さんの政子さんから悲報を受けた時は信じられない衝撃でした。マツさんは、一九四五年に、関東学院女子専門学校の事務局職員として就職されました。文部省の学制変革で専門学校が短期大学に変り、更に大学に統合された後も、学院の発展と変遷をみながら共に歩んでこられ、永年勤続栄誉賞も受けられました。私は一九五〇年四月、短大の一期生として入学した時にマツさんと出会いました。以来六十年を越える年月を、友人として親しくお付き合い下さいました。学院を定年退職されてからは、長年、学んでいらした茶道の先生として生徒さん達の指導をされて充実した日々を過ごされたと伺っております。毎年開かれる同窓会にも出席されて、卒業生と親しく語らいの時をもち、交流を楽しんでおられました。患らわれたこともなく余りにも突然のお別れで、呆然としました。葬儀は霞ヶ丘教会でとり行われましたが、私は骨折のリハビリ中で歩くことが出来ず最後のお別れに行かれなかったのが、只々心残り、「マツさん、ごめんね、今までありがとう」と祈る日々です。八十七才のお年迄元気に過されたことは、神様のお恵みと思い、今は天国で安らかな眠りの中にあるマツさんに「長い人生、ご苦労様でした。又いつか逢える日まで、しばらくのお別れね。ありがとうございました。」と語りかけてみ霊の平安をお祈りしております。

「オリーブの会」

内田　須美子（家12回）

平成二十四年十月二十日（土）オリーブの会が上大岡の「花里」で当日十四名の出席者をもって秋晴れの中開かれました。

今回は私は久し振りの参加なので何となくドキドキしながら行きましたが、幹事さんをはじめ皆様のあたたかいまなざしに在学中のなつかしい思い出が次から次へとよみがえり自然に輪の中に溶けこんでいきました。

とても楽しいひとときでしたが、その席でお世話になりました鳥越ノリ先生が亡くなられた事を知り日頃いかにご無沙汰をしていたかと反省も致しました。

私事ですが、次女も短大卒、相手も大学卒ということもありまして十年程前に大学のチャペルで挙式をあげさせていただきました。その折に度々キャンパスに足を運びましたがいろいろと様変りをしていて年月をしみじみと感じました。

卒業して五十年、過ぎゆく日の早い事に今さらながらおどろいております。でも気持ちだけは何とかあの青春時代にもどれると思いますが…？　しかし年令はどんな環境に置かれていても平等に重ねていくことになりますね。

近くに特養ホームがありまして設立以来私も行事がある時に微力ながらお手伝いをさせていただいております。お元気な方でも一年ごとに体力がほんの少しですがマイナスに向っていくのを見ておりますとこれからは私も体力、気力をそれなりに大事にして生きていかなければと思いました。

日ざしがかた向く頃お庭で記念写真を撮り再会を祈念してそれぞれが家路へ。

幹事さん、いろいろご配慮をありがとうございました。

短大での思い出 Memories

（順不同・敬称略）

改組・転換から十年

関東学院女子短期大学 元学長　小玉　敏子

関東学院女子短期大学を一九九七年定年退職、英文科特約教授を経て、二〇〇二年に完全退職した私は、改組・転換の詳細を知る機会はありませんでした。タブロイド判『香葉』が出ていることを知ったのは、関東学院が創立一二五周年を迎えた二〇〇九年に第七号を手にしたときでした。それ以後は毎号送ってくださいますが、今回、原稿を書くに際し、それ以前のものにも目を通した方がよいと思い、創刊号から六号までを送っていただきました。

創刊号には、会長以下役員の交代、短大同窓生の「ホームカミングデー」、タブロイド判『香葉』の発行、同窓生が気軽に集う会の開催、など香葉会のこれからの活動計画が具体的に述べられています。それを読んで、その後の号の編集方針や記事を理解することができました。また、変更された香葉会会則、図書館棟の東側にある短大のモニュメント、改組・転換に伴う、元短大教員の所属学科などの情報も得ました。

今年、室の木校地に大きな変化がありました。一九七二年、最初に建てられた短大体育館が、隣の六号館と共に取り壊され、関東学院大学七番目の学部として新しく開設される看護学部の校舎が建設され、五月十一日（土）に開設記念講演会、記念式典、祝賀会が行われました。これより先、短大正門前にあった駐車場に関東学院六浦こども園の園舎が完成し、幼稚園がこちらに移転して新しい歩みを始めました。こども園園長兼幼稚園園長の根津美英子さんは短大幼児教育科第一回卒、幼稚園主任の鈴木直江さんは第五回卒です。

一九四六年、英文・家政の二科で始まった女子専門学校は、県内最大の五科二専攻を擁する女子短大に成長、二〇〇二年に改組・転換が実現、大学人間環境学部となりましたが、終始、校訓「人になれ　奉仕せよ」を掲げての歩みだったと思います。

「改組十周年にあたり思うこと」

関東学院女子短期大学 元学長　吉田　博

先日、国立科学博物館で開催されていた「グレートジャーニー（人類の旅）展」に出かけました。「我々は何処から来たのか？」をテーマに、関野吉晴さんが人類のルーツを辿るべく、南アメリカ最南端のナボリーノ島から、ユーラシア大陸を経て、東アフリカの人類発祥の地へ、五万三千kmを人力のみで走破した彼の十年の歳月の全記録です。

彼は、この旅で、大昔の人々が旅路で感じた暑さ、寒さ、風、匂い、塵、雨、雪を五感で受け止め、這いずり回りながら人類にとっての普遍的な「問い」について考えてみたとのことでした。

「我々は何処から来たのか？」というこの問いは「我々は何者か？」、「我々は何処に行くのか？」という問いにも繋がり、いつの時代においても考え続けていかなければならない普遍的なテーマだと思います。

少々保守的な人生を歩み始めた現在の私にとっては、胸躍る、魅力的なテーマで、しばし男のロマンというものに思いを馳せました。

二月二十四日、一年遅れの「人間環境学部十周年記念式典」が横浜ロイヤルパークホテルで行われました。五〇〇余名の卒業生、在校生が一堂に会し、楽しいひとときを過ごしました。実社会で鍛えられ、逞しく成長した彼らを見ていると、妙に嬉しくなり、教員冥利に尽きる思いを実感しました。

十一年前、五科三専攻を有する総合短大であった関東学院女子短期大学を「人間」、そして「人間と環境」をコンセプトに据えて誕生した人間環境学部も激変する社会の変化に対応しながら、四千名近い若者を社会に送り出してきました。これからも人間環境学部は止まることなく、社会をリードする大学として、「我々は何処から来たのか？」という関東学院の源流を起点に、「我々は何者であるべきか？」、そして「我々は何処に行くべきか？」という命題を掲げながら、歩み続けていくものと思います。そしてこれからも本学部を卒業した彼らが常に誇りに思える大学であり続けたいと願っております。

被服科学実験室と共に

人間環境学部
人間環境デザイン学科元教授　渡辺　紀子

私が女子短大家政科家政専攻の専任講師として赴任したのは一九七〇年の四月でした。たしか当時の担当科目は被服整理学の講義・実習、衣料学などでした。当時の被服整理実習室は本館から離れたところにあり、旧教員住宅二軒分で作られたということで、教室の真ん中には柱を中心に向かい合わせにコンクリーの洗い場があり、部屋の角には実験用の戸棚と木製のたらい・張り板・洗濯板などが、後ろには洗濯機・洗浄試験機などが設置されておりました。

一九七〇年は林淳三学長のご尽力でハンソン山の造成が完了し、室ノ木校地に女子短大を移転するマスタープランがあった頃でした。林学長のご配慮で、早速、実習室の一部を増築していただき、そこに実験台と一部の機器を入れていただくことで研究再開の環境が整ったことは有難いことでした。

その頃、文部省の科研費総合研究「資源の節減を目標にした家庭洗濯の合理化」の若手メンバーとして参

加した分担課題「洗浄における海水利用の効果」は、以後の一連の研究に発展するよい機会ともなりました。

一九七八年には待望の室ノ木校地一号館が完成し、明るい四階の被服科学実験室に移ることができました。勿論、昭和三〇年代に桧垣好子先生・鳥越ノリ先生らが地域の婦人対象の夏期講習会を開催されその収益で購入されたという回転式電気洗濯機、その後の撹拌式や噴流式洗濯機も大切に引っ越しました。これらは戦後日本における初期の電気洗濯機の歴史を物語っており、現在でも使用可能です。

女子短大改組以降の十年間、環境の視点から衣生活を科学的に考える担当科目であった「環境実験（洗浄）」「環境実験（繊維・染色）」は、人間環境学部・人間環境デザイン学科に移行しても、男子学生にも興味を持って受けとめてもらっていたと思います。この三月末で定年退職をした関東学院での四十三年間は、白衣姿で被服科学実験室と共に歩んで来たといっても過言ではありません。

国文科と私

関東学院大学文学部教授　岩佐壮四郎

それまで二年ほど勤めていた山口女子大から女子短大に赴任したのは、一九七九年。杉野先生の後任でした。国文科も室の木に移転したばかりで、瀟洒な白い校舎の二階に国文科の教室や演習室、研究室などがありました。■岡松先生が学科長で、上代が土井、平安朝が千葉、近世が山下、近代が岩佐というのが専任のスタッフで、これに漢文の川崎、書道の篠崎の各先生が、特約の教授として学生の指導にあたっていました。また、この年から成川さんに代わって、佐藤さんが助手になりました。■国文科創設いらい応援してくださった兵藤、小玉の両先生を始め、非常勤の先生方も充実しており、清新の気に溢れていた頃でした。■国文科だけでなく、短大全体が若く、意欲的で、下田先生に代わって学長に復帰された林先生のもと、三号館、チャペル、図書館棟が続々と建設され、幼児教育科に引き続いて経営情報科が新設されるなど、人文・社会・自然の三領域を包含した総合女子短大としての形を整えたのは、林先生が近著『女子短大と私』で述べられている通りです。むろん短大が掲げたキリスト教女子教育の理想が単なる謳い文句でなかったのは、他に先駆けて小玉先生が女性学長に就任された事実が語っているところでもあります。■悲しい出来事もありました。山下先生と千葉先生が相次いで亡くなられたのは国文科の三十年の歩みのなかでも、忘れることのできない思い出の一つです。■改組では、国文科の定員を基礎に、文学部では比較文化学科が誕生し、国文科からは私を含め三人が、一般教養からは二人が移籍することになりました。人間環境学部には、やはり新設の現代コミュニケーション学科に二人が移籍しました。比較文化学科には、博士課程まである大学院も出来ましたが、その名称は比較日本文化専攻。旧国文科の卒業生も学んでいます。国文科の伝統が、脈々と受け継がれているのは、嬉しいことです。

生活文化専攻と人間環境デザイン学科

人間環境学部
人間環境デザイン学科教授　水沼　淑子

関東学院女子短期大学を前身とする人間環境学部が発足し、今年で十二年目となる。筆者は短期大学では家政科生活文化専攻に所属し、住居学関連の科目を教えていた。筆者が着任後、生活文化専攻の中に実務を経て二級建築士の資格を取得することのできるコースができ、卒業生の中には資格を取得したものもいる。また、大学建築学科への編入者も毎年おり、五名前後の学生が編入した年もあった。その中には大学院まで進学し、自らの専門を極めた学生もおり、生活文化専攻の中に誕生した、空間を通して生活を学ぶというカリキュラムが大きく実った思いを抱いた。

人間環境学部改組の際には、家政科から健康栄養学科と人間環境デザイン学科が誕生した。人間環境デザイン学科は家政専攻のカリキュラムの一部と生活文化専攻のカリキュラムの一部を中心に、環境保全も視野に入れた新しいカリキュラムでスタートした。

以後、数回見直しが行われているが基本は変わらない。設計演習科目は相変わらずカリキュラムの主要な柱である。かつての製図室は三〇名定員の小さな教室だったが、現在は六〇名余りが入る製図室となり、設計演習科目の課題も学ぶ期間が長くなったのに伴い複雑な課題にも挑戦している。ただ、変わらないのは提出間際の緊迫した雰囲気と、提出日の徹夜した学生の今にも閉じてしまいそうなまなこだろうか。

一年ほど前だったか、人間環境学部の卒業生を招いて在学生に仕事の話をしてもらった。空調関係の職場で働く彼女の話は、大変示唆に富んでいた。学生から難しくないか？と質問が出た際に、彼女は、ここの短大を出た先輩がいて親切に教えてくれたから大丈夫だった、と答えた。名前を聞くと、私もよく覚えている生活文化専攻の卒業生だった。生活文化専攻と人間環境学部は本当に兄弟なんだ！と感じた一幕だった。短期大学の卒業生の皆さん。人間環境学部の後輩を是非よろしくお願いいたします。

編集後記

快よく原稿をご執筆して頂いた先生方や卒業生の皆様に心より感謝申し上げます。

クラス会等皆様のご投稿をお待ちしております。

時代の流れの中で、六浦こども園開園

園長　根津　美英子（幼1回）

関東学院女子短期大学幼児教育科一回生として卒業して三十八年が過ぎようとしています。その多くの時間を関東学院の幼稚園で過ごして参りました。現在は関東学院六浦こども園に勤務しております。二〇一三年四月より新園舎となり、幼保連携型の認定こども園として新たな歩みがスタートいたしました。その源は一九四八年、教職員子弟のためにつくられた関東学院教会幼稚園にあります。以来六十五年の間に、関東学院幼稚園、関東学院女子短期大学付属幼稚園、関東学院六浦幼稚園と名称の変更がなされてきました。二〇〇三年、三回目の改名は短大から大学への改組のときでした。愛着のある短大がなくなることに一抹の寂しさを覚え、時代の流れを感じたことでした。幼稚園は様々な事情で名称が変わりましたが、神さまからの大切な預かりものである幼子一人ひとりを、愛をもって受けとめるキリスト教保育の精神と、豊かな遊びの中で主体性を育む保育の方針は変わることなく受け継がれています。この度、こども園化に伴い、六〇名定員の保育園を新設し、〇歳から六歳までの子どもたちが親御さんの就労の有無にかかわらず一緒に生活をすることになりました。赤ちゃんの泣き声に、無垢な寝顔に幼児も大人も新鮮な気持ちにさせられています。新しい園舎のコンセプトは幼保一体と大学との連携、地域子育て支援の充実です。

特に子どもたちの主体性と創造性を育む空間として「あとりえ」や「協働スペース」が設けられました。子どもたちはアートな体験や自ら選んだ活動に目を輝かせて取り組んでいます。この活動の一端を担ってくださっているのは保育を学ぶ大学の学生さんたちです。

また、現在のこども園には改組となった大学人間発達学科の一回生が四名も中堅保育者として活躍し、実習にくる後輩たちの指導にあたっています。未来そのものである子どもたちと明日の保育者を育む場として、これからも豊かに用いられていきたいと願っています。

「女子短期大学から香葉会へ」この繋がりに感謝

元短大非常勤講師　精木（あべき）　勇（いさむ）

たしか一九九四年の春先、大学建築学科の肘黒教授から東京の職場の私に突然電話がかかってきた。「女子短期大学家政科の非常勤講師を引き受けてほしい」との下交渉だった。受け持つ講座は「住宅施工学」。二〇〇二年三月までの八年間、室の木キャンパスに通ったことが懐かしい。やがて短大は学部へ改組、それとともに私の役目は終わった。一クラス五〇人としておよそ四〇〇人位の学生と接したことになる。毎学年一年生に、木造住宅模型を五〇分の一で作ることを課した。学生たちにはじめは大いに恨まれた。製作は決して楽ではなかったからだ。「完成した時の喜びは一生涯忘れない」と、異口同音に殆どの学生が感想文で述べていた。私が接したこのころの卒業生の皆さんお元気ですか？

山手西洋館めぐりのこと。今年の予定は十二月七日（土）。ここ数年「洋館を建築的に説明する案内役」を依頼されている。「横浜山手洋館24」（拙著二〇〇九年九月発刊）が、お役に立っているのが幸いだ。洋館ごとに異なるクリスマスデコレーションを見せてくれる。去年、一昨年とも、巡りが終わったあと、十名ぐらいが元町のイタリアンレストラン「クオヴァデス」でランチへ。両年とも一行に加わり、談笑のひとときを楽しんだ。

五年前、香葉会は学院一二五周年を記念して記念講演会を開催した。その折の講師を仰せつかった。要請テーマは「横浜三塔物語」。この講演がきっかけとなって、大学生涯学習センターから公開講座の一こまを担当することの依頼を受けた。以来春・秋の講座を持ってきた。ちなみに二〇一三の春講座テーマは「巡ろう！ヨーロッパの世界文化遺産」。毎回、香葉会員数名の方々の参加があります。女子短期大学から香葉会へと、繋がっていることを我が喜びとし感謝しています。最後に会員皆々様のご健勝を祈ります。

短大創立当時のこと

香葉会前会長　古城　房子（英1回）

第二次世界大戦の末期、一九四五年三月、東京大空襲があり、横浜市も街の中心部は焼夷弾によって殆ど焼きつくされました。三春台にあった関東学院中学校も、石造りの外壁丈残して内部は焼失したと聞いている。男子校だった関東学院に、初めて女子を受け入れる英文科、家政科の専門学校が出来たのは一九四六年四月で、これからは女性が活躍する時代がくると、確信された坂田祐（たすく）院長が、有能な人材を育成しようと設立された。意欲のある者は年令を問わず受け入れる方針で、学力不足の者や学歴のない者を再教育する為、女専附属の女子高等学校をはじめ、予科や別科を造られ、昼間、働いている人の為には、夜間の英語学校も設立されたのである。優秀な教授陣が集められ、熱意をもって指導にあたられた。戦争中、農家での勤労奉仕や工場で働く毎日で、英語も、女学校入学早々、敵国語であるとして禁止され、殆ど勉強らしいことをしていなかった私のような劣等生も受け入れてくれ、一年の二学期には英語のスピーチコンテストで優勝し、シェークスピア英語劇に出られる迄に鍛えられた。宣教

師のタッピング先生は、自宅に学生を招いてケーキやクッキーの作り方を教えたり、レクリエーションクラブを作ってゲーム等を通して英会話を指導された。アメリカンスクールの高校生の授業見学や学生主催のティーパーティに招かれたり、様々な体験をさせて下さった。クリスマスには本牧の将校達の家々をキャロルを歌って廻ったりアメリカ文化センターのチャペルでの礼拝に参加したり、短大にいたからこその貴重な体験をしたことが沢山あり私の人生の基となり、指針ともなっている。後輩達も、短大で経験した多くの事を、これからの社会で生かし、活躍してほしいと願っている。

改組十周年にあたり

人間環境学部
現代コミュニケーション学科教授　松下　倫子

今回は寄稿の機会を戴き、ありがとうございます。

私が女子短期大学経営情報科に勤めはじめたのは一九九七年四月でした。人間環境学部のスタートが二〇〇二年四月ですから、丸五年間女子短期大学に所属していたことになります。長い歴史の最後の極わずかな期間でしたが、諸先生方や職員の方々、当時の在学生の皆さんには大変お世話になりました。

当時の女子短大生は非常によく勉強し、活発で、考え方が大人だったように思います。人間環境学部の一期生は今でも、自分たちが一年生だったときの短大二年生の「お姉さん」達のことを話題にしています。それだけ印象深かったのでしょう。

人間環境学部の四学科の中で私は現代コミュニケーション学科に所属していますが、この学科は、女子短期大学の国文科・英文科・経営情報科を再構成した学科です。きちんとした日本語で書き、話す。英語をツールとして他人と円滑にコミュニケーションする。パソコンなどの新しい情報機器を使いこなし、現代的なビジネス感覚も養う。少々欲張りな教育内容の学科ですが、社会で活躍している卒業生の頼もしい姿から、この学科の果たす役割を教えてもらっているように感じています。

この十年間で社会は大きく変化しました。新しい技術やサービスも提供されています。その一方で、変わらず大切なもの、これからも大事にしなければならないものもあります。社会に貢献できる人材を育成するために、大学も学部も学科も自らを見つめ直す時期が来ているのかもしれません。

最後に。改組から十年ということは、井口伸先生が逝去されてから十年が経つことになります。短かい時間でしたが、先生の姿勢から多くのことを学ばせて戴きました。私が女子短期大学に勤めるきっかけを与えてくださったのも井口先生でした。改めてさまざまな縁に感謝するとともに、快活で常に前向きだった先生を偲びたいと思います。

卒業生に幸いあれ・短大・英文科を想い起して

人間環境学部
現代コミュニケーション学科元教授　加藤　紀子

英文科・卒業生の皆さん、お元気ですか。幸せに暮していらっしゃいますか。関東学院女子短期大学・英文科で学んだことが「良かったなあー」と、時々なつかしく思い出して下さっていますでしょうか。

英文科の専任講師として、私は昭和四十四年（二十八歳）から教え始めて、三十余年……最後の英文科長として留年生の一人を社会に送り出しました。その時改組された新学部（人間環境学部）現代コミュニケーション学科の教授も兼任しており、平成二十三年三月に退職するまで、英語や英文学・イギリス文化を教えることが出来ました。研究室には、短大から大学・大学院まで学び続けた卒業生たちが訪ねて来ましたので、短大の教員であったという意識はずっと消えませんでした。

戦後女性のエリートを創出することを目指した「女子専門学校」は、短大に学制改革されてからも、優秀な女性の人材を育成してきました。大企業の会社員、ホテル・ウーマン、スチュワデス、警官、教師、牧師となられた方々は今もきっと御健在でしょう。また良き母となり御子さんに英語を教えていらっしゃる方も多いことでしょう。校訓「人になれ奉仕せよ」の人間教育は、天城山荘のリトリートによって深められ、英語力は、L・L教室、宣教師たちの熱心な指導、シェイクスピア劇公演、科誌Campusへの投稿指導、専攻科等の少人数教育によって鍛えられました。助手や職員となった卒業生達の力も、優れた英文科の伝統を築いてきました。

卒業生の方々は、これからも英語の学習を継続し、グローバル化が益々すすむ社会の中で活かして下さるように祈念しています。そして最後に、「めげないで幸せに生きる」ヒントが見つけられる『置かれた場所で咲きなさい』（渡辺和子著）の書をおすすめします。

卒業生だより

軟式庭球部ＯＧ会

外崎（とのさき）　和美（国15回）

六月晴天の日、横浜中華街にて、軟式テニス部ＯＧ会と田山先生退職お疲れ様会がありました。私達五十六年度卒から六十年卒までと、コーチ陣も含め二十一名が集まりました。

五十六年度卒は、夏合宿で忍野八海も行きテニスは勿論、田山先生のお子さんもいっしょにとんぼ取りまでした長閑な思い出話。

「全国私立短期大学体育大会」では、名古屋で、開会式から閉会式までの四日間参加した事。閉会式では、「髭の殿下」（亡き三笠宮寛仁親王）とフォーク

ダンスで、ご一緒させていただいた貴重な体験話などに花が咲きました。ところで当時私達の大会の時にはなくて少し寂しい思いをした「部旗」なのですが、後に作られた事を初めて知りました。今回のように「部旗」を囲んでのOG会もいいものでした。各部活の皆様も「部旗」と共に集まってみてはどうでしょうか。思い出が蘇りますよ。

岸　文美子（国15回）

去る六月九日に田山先生の退職お疲れ様会が開かれました。

参加者は連絡を取ることが出来た軟式テニス部OGとコーチの合計二十一名でした。（五十六年度卒六名、五十七年度卒二名、五十八年度卒六名、六十年度卒三名、コーチ二名）

軟式テニス部のOG会は四年ぶりの開催となりましたが、短大卒業以来の顔合わせとなる方がいたりと、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。

田山先生は以前と変わらずバイタリティーに溢れ、我々OGもたくさんの元気をいただきました。

宴の最後には田山先生を囲んで、全国私立短期大学体育大会や関東リーグなどで行動を共にした、汗と涙の染みついた部旗と一緒に記念撮影が行われ、大変思い出に残る会となりました。

田山先生のこれからの益々のご活躍を、軟式テニス部OG会一同、心よりお祈り申し上げます。

江ノ島散策

天羽　富江（家10回）

平成二十四年十月十三日、快晴。家からバス→JR→モノレールと乗継ぎ、集合場所の小田急江ノ島駅に到着。浦島太郎伝説を今に伝える竜宮城を模した駅舎です。国の重要文化財に指定されていて、関東の駅百選にも、指定されているそうです。そこから出発です。香葉会の会長山口さんが案内して下さいました。弁天橋を渡ると、①モース記念碑があり、大森貝塚の発見者であるエドワード・S・モースが、漁師小屋を改造して、東洋初の臨海実験所を開設し、海洋生物の研究をされた方の碑です。②辺津宮、中津宮、奥津宮と三人の女性の神様の祀られている江の島神社をお詣りして、エスカレーターに乗り、島の上の方へ。③サムエルコッキング苑、この地に初めて庭園を造った英国人貿易商、サムエルコッキングが、江の島の頂上に別荘を建てました。残念なことに、大正十二年の大震災で温室の上屋は、すべて倒壊した様で、レンガを主体とした遺構が残っており、ボイラー室、貯蔵庫、貯水槽などの遺構が現存しています。④展望灯台（シーキャンドル）は、二〇〇三年四月に、江の島電鉄（通称江の電）一〇〇周年記念事業として、完成の灯台です。灯台のエレベーターに乗り、屋上まで行くと、ランドマークタワー（横浜桜木町）富士山、烏帽子岩など、すばらしい眺めでした。⑤江の島の岩屋、海水の浸食によって出来た洞窟で、岩屋が二つに分かれていて、弘法大師や日蓮上人が修行された洞窟と言われています。整備がされていて、与謝野晶子の歌碑や亀石などがありました。⑤稚児ヶ淵、岩屋の前に広がる岩場は、関東大震災の折に隆起したものだそうです。芭蕉の句碑がありました。階段をあがったり、おりたりして一万五千二五五歩、歩きました。よい運動になりました。海を眺めながらの昼食、焼き蛤やしらす丼、あんみつをいただき、話に花が咲き楽しい、おいしい一時（ひととき）をすごしました。来年は、どこを散策するのでしょうか？今から楽しみにしております。みんな集まれー　楽しいですよ!!

横浜山手西洋館散策

土屋　知里（幼12回）

平成二十四年十二月八日土曜日。港の見える丘公園前に集合して、山手の西洋館散策に出かけました。

今回の参加者は、楢木先生を含めて十七名。先生が製作された「山手西洋館二十四」を手に散策を開始。小型マイクとスピーカーをつけてくださっているので、先生の解説はよく聞こえます。

私は昨年に引き続き二回目の参加でした。

鎌倉に住み、横浜の学校に通っていた割には、山手に見学可能な西洋館があんなに沢山あることすら知らなかったのですが、クリスマスシーズンの各

建物にはリースやツリーなど様々な装飾が施され、見学に訪れている人も沢山いて、なかなかの賑わいです。様々な飾りつけも昨年と今年では全く違っていて、それぞれステキです。

普通に眺めて歩くだけでも充分楽しそうですが、例えばベーリックホールは、ライオンの口の壁泉があったり階段の手すりがおしゃれなだけでなく、屋根に近い外壁にも特長があります。山手二三四番館はもともとは外国人向けの集合住宅だったそうで、ポーチの円柱がステキなのですが実はこれギリシャ風なのだそうで、確かにギリシャっぽい！

そして更に今回は、山手聖公会のご好意で教会堂の中に入れていただいた上に、お話を伺うことまで出来たのです。関東大震災で崩壊し、横浜大空襲や火災で焼失したこともあるという教会の様々な歴史を話していただきました。

私は短大卒業後は香葉会との接点はなかったのですが、縁があって平成二十三年度から「香葉」の編集委員をさせていただいています。おまけに平成二十四年度からは副会長です。名前だけですが…

これを読んで「何？知里？」と私をご存知の方がいたらぜひ連絡をくださいね。そして、気が向いたらイベントにも参加してみてください。

いろんな形で昔の仲間が繋がっていけて、なおかつ同じ学校の先輩や仲間たちと新たに繋がっていけたら嬉しいなぁと思いながら今原稿を書いています。

今回の西洋館散策は思ったよりも沢山歩いて、正直だいぶ疲れたのですが、それ以上に楽しい時間を過ごせたことが嬉しかったです。

ビーズ講習会　初参加！

河西　妃呂美（家31回）

香葉会のみなさま、こんにちは。

前から、気になっていました「ビーズ講習会」に思いがけず香葉会の役員の方から、お声をかけていただきKGU関内メディアセンターのほうに伺う機会を得ました。

みなさまと一緒に「ビーズ刺繍のコサージュ」を先生から懇切丁寧に楽しく学びながら、短大時代の「服飾手芸」の時間をなつかしく思い出していました。

短大は二年間だけで、とても短い期間だったような気もしますが、あの時代に、いろいろな基礎を幅広く教えていただきましたので、社会に出てから、自分の興味分野を少しずつ広げてまいりました。

短大在籍当時は、そんなに思っていなかった関東での学び、経験が、その後の人生にどれだけの広がりをもたらしてくれたかと思うと、卒業して良かったと、今、思います。

当時の私は、体調などいろいろなことに忙殺され、卒業することが目標でしたので、正直言って、あまりちゃんとした勉強は出来ませんでした。

現在は、KGU関内メディアセンターの「食と健康アカデミー」の市民講座にも定期的に参加させていただき、「食と健康」が、私のテーマとなっています。

卒業後にも、こういう機会やつながりを提供していただける関東学院を卒業できたことを、とてもうれしく思います。

今回のビーズ講習会をきっかけにして、これからは、香葉会のイベントに参加させていただきたいと思っています。香葉会の先輩に教えていただいた素敵なビーズのコサージュを胸につけて、誇らしげに講習会から、帰ってきました。

香葉会のみなさま、楽しいひとときをありがとうございました。

香葉会　年会費・賛助金　納入者名簿

皆様のご厚意により、平成24年度（平成24年4月1日～平成25年3月31日）のご寄付は600,000円と成りました。

香葉会の会費の一部として有効に使わせて頂きます。皆様のご協力に感謝し、今後ともよろしくお願いします。（敬称略・順不同）

岡松和夫先生を想う会

【旧教職員】
加藤　紀子
岡田　宣子
牧野　宏子
椙木　勇
渡辺　紀子
望月　享子
小玉　敏子
金井　清一
井口安喜子
大河原幸男
田中　順子

【女専】
小川美津江
渥美　裕子
芹澤　雪子
出　榮美子

【女高】
古川　鈴子
岩瀬　信子
大島　智子
古郡　綾子

【英Ⅱ】
二見アイ子
千田　節男
古内　節治
高山　政子
松井　恭子
竹内恵美子
山本瑠美子

【英文】
松友　明見
小玉　敏子
金井　清一
齋藤美保子
児玉三重子
鈴木百々代
早川　寿子
高橋　咲子
柳田美智保
加藤　恵子
藤原　史子
渋谷　敦子
名城美砂子
澤野　洋子
冨里　美子
松野トシ子
竹内恵美子
小濱　朝子

内田　駒子
古城　房子
柳生　二三
馬越千恵子
長崎　洋子
水野　雅子
山本　美子
柳下　節子
葛城　容子
山口　佳子
匿　名

杉浦　裕子
石渡　朝子
佐生　貴子
上野　美奈
矢野　紀子
栗林　芳恵

阿部　典子
梅田　優子
松野　きよ
藤　恵津子
細谷さとみ
五十嵐増枝
山口恵美子

【国文】
平野　雅子
黒山　恵子
山田　信子
益川　良子
桜井　智子
松井亜希子
根本　京
伊藤紀代子
小出美智代
田中　直子
山岸　千香
遠藤　裕子
菊地　純子
多々良由紀子
福井　英子
坂本　篤子

【家政】
成川　勝子
近藤　鶴子
阿部　聖子
今井　真理
金田　玉恵
祖父江有加
原田二三栄
柴山　香
澁谷三千代
渡辺　冴子
道明多賀子
重田　和子
平井　初枝
山野　衣美
舟橋　智子
小野寺里佳
森　禎子

【幼教】
石川　明美
芝　久江
松吉　朋子
関口眞喜子
原　由美子
蔭山　美香
神崎　直子
水松　春美
島田　郷子
早野　佳恵

【経情】
齋藤　恵
鬼原　祥子
四十八願淳子

馬渡　正恵
長田久美子
池田　理恵
熊澤美恵子
星　友子

伊東みゆき
髙齋香代子
菊地　和子
村岡　愛子
足立　求子
仲村恵理子
松上　尊代

平成二十四年度決算・平成二十五年度予算

今年は、十周年記念事業のために特別な企画を考えております。ぜひ卒業生の皆様のご参加をお待ちしております。

関東学院女子短期大学香葉会

収入の部	H24年度決算	H25年度予算
年会費・賛助金	600,000	600,000
特別会計繰入金	2,500,000	2,400,000
特別基金Ⅰ繰入金	—	60,000
特別基金Ⅱ繰入金	—	500,000
雑収入	19,139	20,000
前年度繰越金	26,647	354,999
合計	3,145,786	3,934,999
支出の部	**H24年度決算**	**H25年度予算**
通信費	1,441,643	1,500,000
印刷費	608,362	650,000
広報費	0	100,000
企画・会合費	113,532	130,000
交通費	206,300	250,000
消耗品費	11,930	20,000
ソフト費	0	10,000
人件費	276,280	400,000
香葉賞費	0	60,000
関東学院同窓会費	30,000	30,000
十周年事業費	—	500,000
慶弔費	81,750	100,000
雑費	20,990	64,999
予備費	0	120,000
小計	2,790,787	—
次年度繰越金	354,999	—
合計	3,145,786	3,934,999